

## 【学園研 B】

### 1. 研究課題名

無彩色を嗜好する心理特性に関する研究：特異的自己認知傾向との関連

---

### 2. 研究代表者名

所属学部： 文化情報学部 職名 准教授 氏名 羽成隆司

---

### 3. 研究分担者

所 属： 職名 氏名

---

所 属： 職名 氏名

---

所 属： 職名 氏名

---

### 4. 研究成果の概要（1，200字程度で記入。ただし、図・グラフは使わないこと）

【研究目的】これまで研究代表者らは、若者における無彩色への高い嗜好の背景には、特異的な自己イメージの確認や表出という認知的要因の関与があるのではないかという仮説を検討してきた。そして、無彩色嗜好と「自己非開示」、「判断抑制」、「神秘性」といった自己イメージとの関連が示唆された。本研究では、前回用いた自己イメージ測定項目の一部を修正し、上記の仮説を再検討した。

【方法】(1)調査対象者：大学生263名(男性72名・女性191名；平均年齢19.94歳)であった。(2)手続き：質問紙の第1部では、赤、だいだい、黄、黄緑、緑、青、紫、ピンク、茶、白、灰、黒の12色名を呈示し、それぞれの好嫌度をvisual analog scale(VAS)で測定した。第2部では、自己イメージに関わる12項目について、6件法で測定した。

【結果】(1)因子分析：自己イメージ12項目全体の因子分析(主因子法、バリマックス回転)の結果、固有値1.0以上の3因子が得られ(分散の累積説明率37.6%)、第I因子を「自己非開示」、第II因子を「判断抑制」、第III因子を「神秘性」とした。信頼性係数( $\alpha$ )は、順に、.678、.692、.597であった。調査対象者ごとに各因子に対応する質問項目の平均評定値を算出し、それぞれ非開示得点、抑制得点、神秘性得点とした。

(2) VAS 評定平均値（以下、VAS 値）と自己イメージ得点との相関：非開示得点は、橙・黄・ピンクの VAS 値と負相関、青・灰・黒の VAS 値との正相関が有意に認められた。一方、神秘性得点との相関が有意であったのは紫のみ（正相関）、抑制得点はいずれとも相関していなかった。個別色の嗜好とおもに関連する自己イメージは「自己非開示」と思われる。

(4)各無彩色の偏好度と自己イメージ得点との相関：これまで嗜好程度の指標として用いてきた“偏好度”(=各無彩色のVAS値 - 有彩色9色のVAS値の平均：特定の無彩色を他の色と区別して好む程度を示す)を求めたところ、平均で、白:19.46、黒:15.87、灰:-6.97であった。また、VAS値と同じく、いずれの無彩色の偏好度の間にも有意な正相関が認められ、さらに、灰と黒および無彩色平均の偏好度は、非開示得点との正相関が有意に認められた。一方、白についてはいずれの自己イメージとの相関も見られなかった。

【結論】以上の傾向は、黒あるいは灰の嗜好者が、色の嗜好を“視覚刺激としての快適さ”というより、特異的な自己イメージの確認や表出として位置づけていること、すなわち、色嗜好が、研究代表者らが強調する“トップ・ダウン”処理の影響を強く受けていることを示唆している。

\*本研究のデータの一部は、AIC2008（国際色彩学会2008年大会）[ストックホルム]、日本心理学会第72回大会[北海道大学]で報告した。